

食流機構

公益財団法人 食品等流通合理化促進機構
<http://www.ofsi.or.jp/>

2020

11 月号

No.299

OFSI

I N D E X

- | | |
|--|---|
| 巻 頭 言 | ② |
| 令和 3 年度組織・定員要求について - 組織改正要求の概要 - | ③ |
| 地方卸売市場の都道府県認定状況について | ④ |
| 第 29 回 優良経営食料品小売店等表彰事業
日本政策金融公庫総裁賞受賞店のご紹介 < 1 > | ⑦ |
| 「農林水産統計情報」
生鮮取引電子化推進協議会 オンラインセミナーの開催について | ⑧ |

巻頭言

菅新内閣は、行政事務をはじめ、経済社会の各分野においてデジタル化を進める方針を打ち出した。そしてそのため各省庁横断的にデジタル化を推進するデジタル庁を創設するという。それに先駆けて河野行政改革大臣が、行政手続きなどでの押印廃止を打ち出し、各省庁に検討させたところ現在押印を必要としているものの99%は押印を廃止できるとの回答を得たという。河野行革相が、今後行政手続きをデジタル化・ペーパーレス化する場合の障害となる押印の廃止を打ち出したことは、行政手続きの簡素化を求める世論の支持を得易く、新内閣の仕事ぶりを大きくアピールしたといえよう。

わが国では、明治時代以降長らく、諸手続きの主体が本人であることを示すため記名捺印あるいは署名捺印が当然のように必要とされてきたので、これをなくして本人確認ができるかという問題があると思われる。とはいえ、この署名捺印や記名捺印が本当に本人確認の方法として確実なものかといえば、実態は必ずしもそうとは言い切れまい。もちろん重要な書類の場合はいわゆる銀行印や実印など一定の確実な手続きを踏んだ印鑑が使われているから本人以外はめったに使用できないという意味で押印が本人確認の手段として有効であるが、一般の押印はいわゆる「三文判」、「認印」などで足りるとしており、これらはだれでも簡単に手に入れることができるものである。また、署名（自署）といっても各人の筆跡の形が必ずしも確立していないので、本人のものと特定しがたいことも多い。外国ではサインは各人が他人にまねされないように工夫しているようで、年配の読者はアラン・ドロンの主演の映画「太陽がいっぱい」の中でドロロンが友人のサインをまねするためその筆跡を拡大して一生懸命練習している場面を思い出すと思う。

これからは行政手続きがデジタル化され、ペーパーレスで行われるとすれば、それに適した本人確認の手法（たとえばパスワードとかマイナンバーを使う）が確立される必要があるが、それらはすでにある程度社会で受け入れられつつある。例えば、国税の確定申告書は書面で提出するときは記名捺印を必要とするが、e-TAXで申告するときは利用者識別番号や暗証番号で対応できるようになっている。しかし、筆者のような高齢者にとっては、行政手続きの書類に判を押すという行為は、単に本人確認という以上に自分がその書類の記載事項に間違いがないことを確認し、責任を持つことを自覚させる行為という意味があったと思う。

古い話で恐縮だが、筆者が農林省（当時）に入省したころ、省内のある課の経理担当の職員が公金を横領した事件があった。もちろん犯人は罪に問われたのであるが、当該犯人は「自分は確かに公金を横領したが、その出金手続きは上司の決裁を受けている、その決裁をした上司は咎められないのか？」といったという。「引かれ者の小唄」というたぐいの話だが、決裁文書に判を押すにあたってよく内容を見るようにとの教訓として教えられた。

社会のあらゆる分野でデジタル化が進むことは時代の流れであり、それに伴い押印が不要になるのは当然ともいえるが、電子署名にしる、パスワードやマイナンバーの利用にしる、それを使う必要がある場合は、押印と同様、文書の内容を十分理解し、責任を自覚したうえで対応しなければならないことは言うまでもない。しかし、デジタル化は何よりスピードを重んじ、ワンクリックで手続きが進んでしまうので、書面をじっくり読んで慎重に押印することに慣れてきた筆者にとっては的確に対応できるか我ながら不安に思うこの頃である。

読者の皆さんはいかがであろうか？

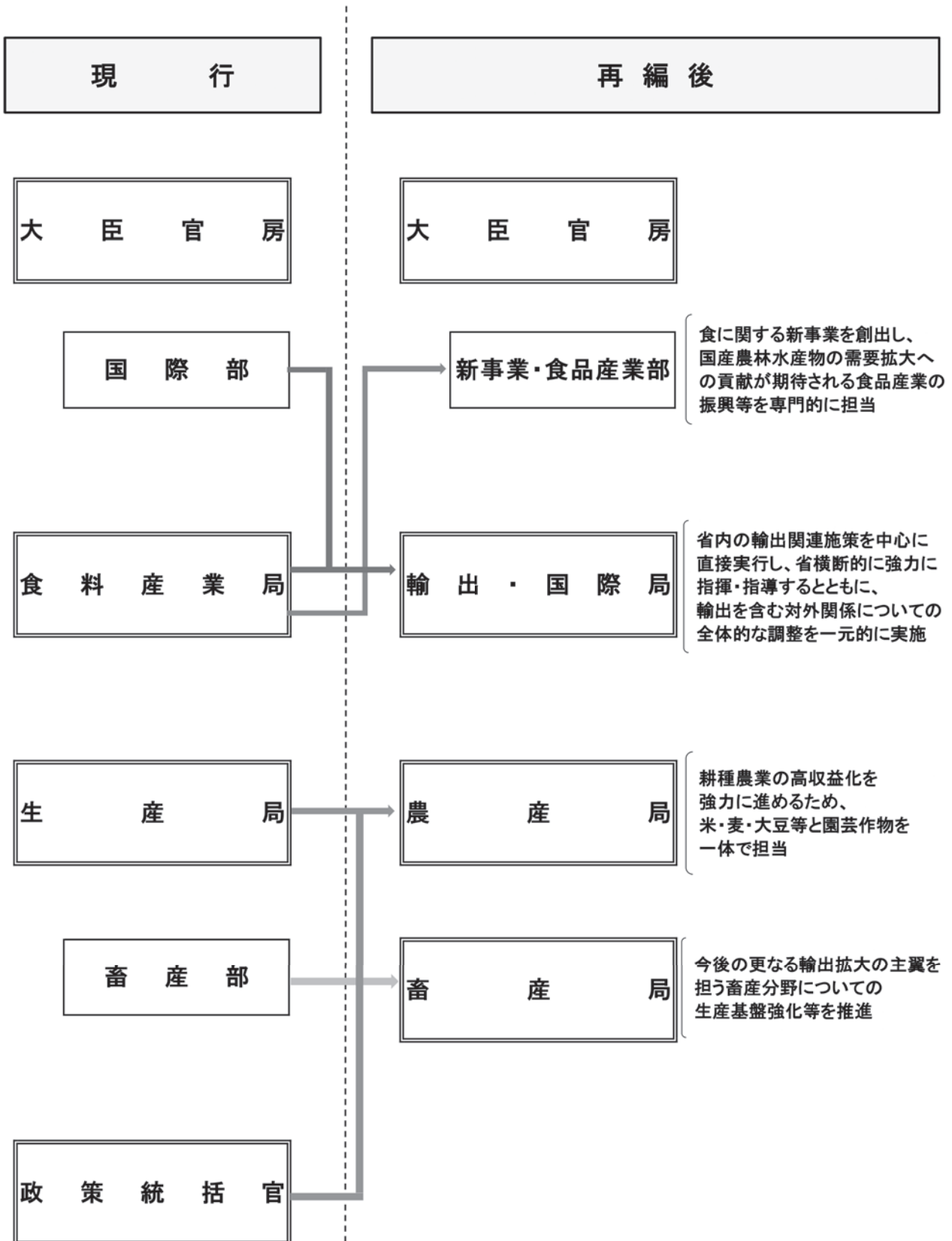
公益財団法人 食品等流通合理化促進機構

会長 馬場 久萬男

令和3年度組織・定員要求について

組織改正要求の概要

令和2年9月農林水産省において、輸出の更なる拡大や国内農業の生産基盤強化に向けた組織の再編と、諸課題に的確に対応することを目的とした体制整備を図るために、来年度の組織・定員要求がなされました。（注：再編後の新たな組織の名称は仮称）



地方卸売市場の都道府県認定状況について

令和2年6月21日に改正卸売市場法が施行されたことで、各都道府県では同法第13条第1項の規定に基づく地方卸売市場の認定を順次行いホームページなどで公開しています。

今回は、現在公開されている関東地域の認定状況第三弾をご紹介します。

(表内の年月日については、各都道府県広報誌等やホームページの公表日としております。)

注) 改正卸売市場法第13条第1項…卸売市場であって第5項各号に掲げる要件に適合しているものは、当該卸売市場の所在地を管轄する都道府県知事の認定を受けて地方卸売市場を称することができる。

都道府県名	地方卸売市場名
栃木県 〈令和2年6月21日現在〉	<ul style="list-style-type: none"> ・黒磯那須公設地方卸売市場 ・公設芳賀地方卸売市場 ・鹿沼市公設地方卸売市場 ・足利丸足地方卸売市場 ・栃木県南地方卸売市場 ・協同組合大印地方卸売市場 ・佐野食品地方卸売市場 ・栃木植物地方卸売市場 ・栃木県食肉地方卸売市場 ・宇都宮花き地方卸売市場
群馬県 〈令和2年6月21日現在〉	<ul style="list-style-type: none"> ・前橋生鮮食料品総合地方卸売市場 ・高崎市総合地方卸売市場 ・伊勢崎地方卸売市場 ・桐生地方卸売市場 ・沼田地方卸売市場沼田魚菜協同組合 ・渋川魚菜地方卸売市場 ・地方卸売市場群馬中央青果株式会社 ・群馬県食肉地方卸売市場 ・前橋生花地方卸売市場
埼玉県 〈令和2年6月26日現在〉	<ul style="list-style-type: none"> ・埼玉川越総合地方卸売市場 ・秩父市公設地方卸売市場 ・大宮総合食品地方卸売市場 ・地方卸売市場浦和総合流通センター ・地方卸売市場山屋青果市場 ・地方卸売市場川口中央青果市場 ・埼玉県地方卸売市場上尾市場 ・所沢総合食品地方卸売市場 ・地方卸売市場上福岡青果市場 ・地方卸売市場東松山青果市場 ・地方卸売市場熊谷青果市場 ・地方卸売市場妻沼青果市場 ・地方卸売市場深谷中央青果市場 ・地方卸売市場中瀬青果市場 ・地方卸売市場上武生産市場 ・地方卸売市場深谷並木青果市場

都道府県名	地方卸売市場名
<p>埼玉県 <令和2年6月26日現在></p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地方卸売市場さいたま春日部市場 ・越谷総合食品地方卸売市場 ・小川中央青果市場 ・加須海陸物産市場 ・松原青果市場 ・本庄青果市場 ・埼玉県水産物地方卸売市場 ・さいたま市食肉中央卸売市場 ・川口食肉地方卸売市場 ・地方卸売市場鴻巣フラワーセンター ・地方卸売市場全農さいたま川越花き市場 ・地方卸売市場熊谷花市場 ・深谷市花植木公設地方卸売市場 ・地方卸売市場埼玉園芸市場
<p>東京都 <令和2年10月19日> ※公表日ではなく掲載確認日</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・東京都練馬青果地方卸売市場 ・東京都青梅青果地方卸売市場 ・東京都八王子北野地方卸売市場 ・東京都国立地方卸売市場 ・東京都東久留米地方卸売市場 ・東京都八王子魚市場地方卸売市場 ・東京東久留米水産地方卸売市場 ・府中大東京総合地方卸売市場 ・東京フロリネット多摩生花地方卸売市場 ・八王子生花地方卸売市場 ・青梅インターフローラ地方卸売市場 ・第一花き立川地方卸売市場
<p>千葉県 <令和2年7月31日現在></p>	<ul style="list-style-type: none"> ・千葉市地方卸売市場 ・船橋市地方卸売市場 ・木更津市公設地方卸売市場 ・松戸市公設地方卸売市場南部市場 ・成田市公設地方卸売市場 ・柏市公設総合地方卸売市場 ・銚子中央青果地方卸売市場 ・市川地方卸売市場（青果・花き） ・館山中央青果地方卸売市場株式会社 ・地方卸売市場株式会社金坂青果市場 ・東金青果地方卸売市場 ・上総青果食品地方卸売市場 ・旭青果食品地方卸売市場 ・沼南中央青果株式会社地方卸売市場 ・大一鴨川青果地方卸売市場 ・印東青果地方卸売市場 ・八街青果地方卸売市場 ・八日市場青果地方卸売市場 ・武井地方卸売市場 ・佐原青果地方卸売市場 ・地方卸売市場市川フラワーオークションジャパン成田 ・株式会社館山丸一青果市場 ・館山丸魚株式会社魚市場

都道府県名	地方卸売市場名
<p>千葉県 <令和2年7月31日現在></p>	<ul style="list-style-type: none"> ・銚子市漁業協同組合地方卸売市場 ・海匝漁業協同組合地方卸売市場 ・九十九里漁業協同組合地方卸売市場 ・夷隅東部漁業協同組合地方卸売市場 ・御宿岩和田漁業協同組合地方卸売市場 ・新勝浦市漁業協同組合川津地方卸売市場 ・新勝浦市漁業協同組合豊浜地方卸売市場 ・新勝浦市漁業協同組合西部地方卸売市場 ・勝浦漁業協同組合地方卸売市場 ・鴨川市漁業協同組合地方卸売市場 ・鴨川市漁業協同組合江見支所地方卸売市場 ・鴨川市漁業協同組合太海支所地方卸売市場 ・東安房漁業協同組合小湊地方卸売市場 ・東安房漁業協同組合天津地方卸売市場 ・東安房漁業協同組合和田地方卸売市場 ・東安房漁業協同組合中央地方卸売市場 ・館山漁業協同組合地方卸売市場 ・館山漁業協同組合館山地方卸売市場 ・岩井富浦漁業協同組合地方卸売市場 ・鋸南町勝山漁業協同組合地方卸売市場 ・鋸南町保田漁業協同組合地方卸売市場
<p>神奈川県 <令和2年10月6日現在></p>	<ul style="list-style-type: none"> ・小田原市公設水産地方卸売市場 ・川崎市地方卸売市場南部市場 ・小田原市公設青果地方卸売市場 ・地方卸売市場神奈川青果株式会社秦野市場 ・地方卸売市場神奈川青果株式会社本社市場 ・南関東花き園芸地方卸売市場 ・鎌倉青果地方卸売市場 ・地方卸売市場真鶴魚市場 ・株式会社相模中央青果地方卸売市場 ・株式会社茅ヶ崎青果地方卸売市場 ・地方卸売市場丸ヶ丘印鶴見青果株式会社 ・花き地方卸売市場横浜南部 ・地方卸売市場横須賀青果物株式会社 ・三浦市三崎水産物地方卸売市場 ・逗子青果地方卸売市場 ・地方卸売市場株式会社神奈川生花市場 ・横須賀市大楠漁業協同組合地方卸売市場 ・戸塚青果地方卸売市場 ・地方卸売市場株式会社小田原園芸 ・株式会社荒井ベジアス荒井青果秦野地方卸売市場 ・平果地方卸売市場 ・地方卸売市場 株式会社横須賀魚市場 ・湘南藤沢地方卸売市場 ・長井町漁業協同組合地方卸売市場 ・株式会社大和青果地方卸売市場 ・平塚市水産物地方卸売市場 ・地方卸売市場株式会社伊勢原食品市場 ・地方卸売市場鎌倉魚市場

第29回 優良経営食料品小売店等表彰事業 日本政策金融公庫総裁賞受賞店のご紹介<1>

石窯パン工房ちゅと 愛知県新城市（パン製造小売店）

自家製天然酵母を使い石窯で焼く田舎の小さなパン屋さん



当店では約700個の耐火レンガを使い2ヶ月の歳月をかけ石窯を手作りした。更に自宅を含む広大な土地を少しずつ改良して、店舗・休憩スペース・野菜直売所を設置する等、お客様や地域の住民が集う場所を作りあげてきた。休憩スペースは来店客同士の交流の場となっている。店名である「ちゅと」(おしゃべり)を実現することができている。

従来のスタイルであるパンを販売する「モノ消費」に加え、パンを作る楽しさを感じてもらおう「コト消費」型のパン屋を目指している。

愛知県食育推進協力店にも登録されており、「親子の絆」をテーマとする親子参加型パン教室を周年イベントとして開催し、パン生地から作り、発酵・成型・薪の石窯で焼くまでが体験できる。子供には作る楽しさ、親には自家製天然酵母の発酵等、プロの技やこだわりを感じてもらい、二世帯において満足度を高め再来店に繋げている。子供達が夏休みとなる7月と8月に、店舗は親子石窯ピザ焼体験工房に変身する。

有限会社亀屋紋蔵 - 紋蔵庵 - 埼玉県川越市（菓子製造小売店）

川越を代表する和菓子店を目指し日々商品開発

当店の売上高1位は「つばさかりん」、2位は「川越ポテト」、3位は「川越江戸の母」であり、いずれも川越特産の「サツマイモ」を原料とするお菓子である。熟練した工場長の目利きによって、一定基準以上のサツマイモを厳選し加工している。

本店の他に支店5店舗を直営し、川越市内を中心に観光スポットや交通の要所等、人出が合って目立つ立地を選んで出店している。支店の中でも「蔵の街店」は川越の観光スポットである元町に出店しており、紋蔵庵のコンセプトショップ的な役割を果たしている。



他の支店と同様に紋蔵庵の人気商品を扱っているが、蔵に街に訪れた観光客を楽しませる工夫が施され、物販コーナーの隣にはカフェを併設している。蔵の街の象徴である「火の見櫓」のミニチュアを囲んだテーブル席を創る等、小江戸の雰囲気味わうことができる店舗である。また店舗奥には日本庭園が造っており、買物目的が無くても、観光客は店に入ることが出来る。

夏期はテイクアウト商品として「ひんやりバトン」等の冷菓、秋には「月見団子セット」と、季節毎にお客様を楽しませている。

掲載内容は「令和元年度優良経営食料品等表彰事業 受賞店の概要」より一部抜粋したものです。
全文はホームページに掲載しておりますので、ぜひご覧下さい。

農林水産統計情報

令和2年4月～令和3年3月までの公表予定より

(https://www.maff.go.jp/j/tokei/sokuhou/yotei/attach/pdf/index_nenkan_r2-5.pdf)

農林水産省（大臣官房統計部及び各局庁等）が公表している農林水産統計について、11月に掲載が予定されている生産・流通に関する資料名を紹介します。

資料名	収録内容	担当課（室）
大臣官房統計部		
・生産者の米穀在庫等調査（令和2年6月30日現在）	6月30日現在における1経営体当たりの米穀の在庫量	経営・構造統計課
・令和2年産4麦の収穫量	全国・農業地域別・都道府県別の作付面積、10a当たり収量及び収穫量	生産流通消費統計課
・令和2年産びわ、おうとう、うめの結果樹面積、収穫量及び出荷量	全国・都道府県別の結果樹面積、10a当たり収量、収穫量及び出荷量	生産流通消費統計課

令和2年度 生鮮取引電子化推進協議会 オンラインセミナーの開催について

当機構が事務局を務める「生鮮取引電子化推進協議会」は、今年度事業の一つである生鮮取引電子化セミナーをオンライン開催することになりました。

詳細については、後日、生鮮取引電子化推進協議会ホームページでご案内します。

ぜひこの機会に本セミナーにご参加下さい。

令和2年11月27日（金） 14:00～	「IT利活用による水産業プラットフォームの再構築」（仮題） 株式会社フーディソン 代表取締役 CEO 山本 徹 氏
令和2年11月30日（月） 14:00～	「原料原産地表示制度の解説」（仮題） （公財）食の安全・安心財団 常務理事 中村啓一 氏

<後援> 一般社団法人全国中央市場青果卸売協会／一般社団法人全国青果卸売市場協会／
全国青果卸売協同組合連合会／一般社団法人日本花き卸売市場協会／
一般社団法人全国水産卸協会／全国水産物卸組合連合会／公益社団法人日本食肉市場卸売協会／
GS1 Japan／公益財団法人食品等流通合理化促進機構

編集後記

▶ ジビエの産地見学商談会の第一弾が10月末に北海道で行われました。来月号では見学の様子をご紹介します。11月開催予定の鳥取・山梨についても引き続き参加を受け付けております。

▶ 空が秋の気配に変わり、各地から紅葉の便りも届くようになりました。秋の観光やイベントも多く見られますが、三密と感染リスクを考慮した企画に頭が下がります。GOTOキャンペーンとあいまってこの観光シーズンが盛り上がることを祈ります。（A）

編集

OFSI 食流機構

◆2020年11月号 / 通巻299号 ◆令和2年11月1日発行

公益財団法人 食品等流通合理化促進機構

〒101-0032 東京都千代田区岩本町3-4-5 第1東ビル6F

☎ 03-5809-2175 FAX 03-5809-2183

✉ ofsi@ofsi.or.jp

ホームページ <http://www.ofsi.or.jp/>

☐総務部 ☎ 03-5809-2175

☐業務部 ☎ 03-5809-2176

▼再生紙を使用しています。